九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

誤認された倭城2題 ： その2 ： 馬沙倭城の位置

服部, 英雄
九州大学大学院比較社会文化研究院 ： 教授

https://hdl.handle.net/2324/1522068

出版情報：21世紀COEプログラム(人文科学)「東アジアと日本 ： 交流と変容」ニューズレター. 5, pp.5-5, 2005-03-25. 九州大学大学院比較社会文化学府
バージョン：
権利関係：

その2 馬沙倭城の位置

比較社会文化研究院教授　服部　英雄

『倭城の研究』4（2000, 7）の59頁に馬沙倭城図（ソウル大学校所蔵）が掲載されている。先行して『倭城の研究』3（1999, 7）の107頁以降に馬沙倭城に関する記述・図面が掲載されている。今回現地踏査を試みたが、結果として失敗した。その後に判明したことは3号の107頁掲載位置図に誤りがあったことである。韓国鉄道サムランジン（三浪津）駅から馬山・鎮海に向かう慶全線が分岐する。洛東江駅とハンリムジョン（翰林亭）駅の間にはトンネルが二つある。われわれは上記位置図の記載に従って、洛東江鉄橋をわたって最初にみえる山、すなわち北側のトンネル上の山に登ったが、遺構らしきものがなく当惑した。倭城の伝承もなかった。正しくはその南側のトンネル上の山の西が倭城であった。馬沙里集落の南西に当たり、生林面と瀚林面の境界に当たる。当日は踏査後の予定が既にくまれていて、課題を残したままになってしまった。

高瀬哲朗「倭城を訪ねて」（『研究紀要』5、佐賀県立名護屋城博物館、1999, 3）の4頁には馬沙城の位置が記されているが、近接位置に二つのドットが落としてある。この論考は『倭城の研究』3よりも早く刊行されている。高瀬氏に確認したところ、井上秀雄「朝鮮城郭一覧」（『朝鮮学報』一〇三，一〇七、昭和五七，五八）の記載から竹島子城としてこの城を知り、名護屋城博物館は鍋島の城ということで最優先し、釜山市博物館・羅東旭氏と共同調査した。『朝鮮学報』には対応する道別城郭分布位置図があるといい（六本松図書館蔵のものには地図がなく未見、紛失か）、それをもとに山にあがったが、その山が我々も登った北トンネル上の山だったらしい。おかしいということで、つぎに南トンネル上の山にあがって確認した。ただし『朝鮮学報』地図を尊重して、複数位置をドットで記したということである。

『倭城の研究』3・掲載地図は『朝鮮学報』地図を踏襲したようだが、ソウル大学校所蔵図と比較すれば、その位置が誤りであることは明らかである。地図掲載の山に倭城や城跡はない。

1980年代に韓国の城全てを地図上に落とした井上氏の労作には敬意を表する。井上表によると、馬沙城については『大東地志』『文献備攷』に倭城としての言及があるという。馬沙城ほかの知られざる倭城の存在はこの論考によって明らかになった。またわれわれは『倭城の研究』から、はてしない学恩を受けている。縄張りの記述・分析は抜群に豊富で、余人の追随を許さない。ただし反面、位置・立地・交通路・集落との関係などの記述・考察は少ない。われわれも、もう少し慎重に報告書の記述を読んでいれば、防ぐことができたかもしれないミスであったが、外国の調査では少ない情報をもとに、わずかな時間での踏査が強いられている。その少ない情報に誤記があれば致命的である。誤記はここでも拡大されている。関係者に訂正をおねがいしたい。